

# 千呂露-Tirololo-

## 1・2年生の進学講習開始

来月から、1・2年生で進学講習が始まります。ここで講習を受ける意味を少しお話ししたいと思います。

去年まで行われていた大学や専門学校のAO入試は、書類審査と「面接」さえなんとかなれば乗り切れました。しかし今年からその名称自体変更になり、内容も変更する学校が多くなりました。総合型選抜と名を変えた入試の内容は、小論文や科目試験も課される場合が増えました。実際に、現3年生の中にも総合型選抜で進学する生徒で数学や現社、小論文などが必要で、授業以外で勉強する姿が見られます。



ご存じの通り、定時制の授業は全日制の授業より少なく、進学する生徒が授業以外で勉強しなきゃいけないのはごく自然なことなのです。

進学を考えている1・2年生は、ぜひ講習を受けてみてください。もちろん、講習以外でも自分で勉強する手立てはい

くらでもあります。要は、もう今から自分の進路を意識した行動を取りましょう、ということです！（小論文については、個人的に添削してもらってください・・・）

### 進路活動のためのオリジナル格言①

# 志望理由書は、自分の第2の顔である。

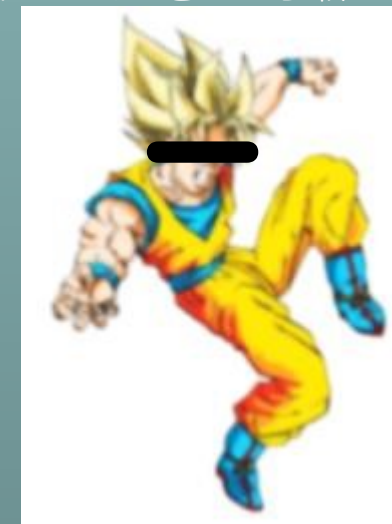
いわば、紙の上で面接をしているようなものです。なので、なるべく見やすくキレイな字で書く努力をしよう。見づらくて汚いと、読んでくれさえもしません。

## 短期連載「進路面接に思うこと」

第3回く全4回> ふだんからスーパーサイヤ人になって慣れておく

かの有名なマンガ『ドラゴンボール』には、「スーパーサイヤ人」というのが出てくる。これは、主人公の孫悟●をはじめとする「サイヤ人」の血を引く者だけがなれる伝説的な戦闘形態の1つで、作中では孫悟空がそれになって相手に勝利する。のちに宿敵でありライバルになるベジータも「スーパーサイヤ人」になるのだが、孫●空たちは日ごろからこの「スーパーサイヤ人」になって生活するようになる。「スーパーサイヤ人」になると体力の消費が激しくなっていくの「サイヤ人」に戻ってしまうため、つねに「スーパーサイヤ人」の状態を保っておくことでいざという戦いの時に備えておくのだと●悟空は作中で語る。

さて、やっと本題に入る。上の例を進路面接に置き換えて考えてみたい。進学でも就職でも、面接試験になるとふつうはよそ行きの自分になって受け答えをするだろう。しかしどうだろうか、その状態はどれくらい続くだろうか。面接の10～20分だけならまだもつかもしれないが、その前後の控え室や移動中の行動も含めると、だいぶ長いあいだ緊張の状態が続くことになる。そこで顔を出してくるのはふだんの自分である。よそいきの自分は次第に疲れてしまい、自分の素がどうしても出る。



ではどうすればいいか。答えは簡単だ。ふだんからよそいきの自分を出す練習をしておけば良いのだ。面接に臨む気持ちをいくらかでも常に持ち、いつも自分自身が見られて評価されているという意識でいるのだ。仮に、今から面接です！と言われても大丈夫なようにしておくことだ。遅くても、面接の2週間前からは、ふだんから「スーパーサイヤ人」でいることをオススメする。

### 8月の進路行事

- 19日（水）始業式
- 21日（金）探究アワード 地域課題探究①
- 28日（金）生活体験発表日勝地区大会
- ~~31日（月）個人面談週間開始（9/4まで）~~